

気仙沼に 行ってきました

「気仙沼とともに歩む会さやま」の企画「^{ししおり}鹿折∞さやま絆の旅」に同行しました。狭山市の子ども10人とスタッフ10人と茶業組合青年部10人と文化団体連合会2人が参加しました。被災した子どもたちの心のケアになるよう楽しい交流体験を企画して狭山の子どもの元気を届けることと、被災地を目の当たりにすることで支援の大切さを子どもたちにも感じてもらうための旅でした。

★8月10日 土曜日 気仙沼「港祭り」ハマランヤ踊りに参加

震災前は港で5000人が踊ったそうですが今年は商店街田中前通りで2500人が参加して2時間賑やかに踊りました。地元の様々な団体に加え早稲田大学や東洋大学の参加もあり、それぞれの振り付けと衣裳で見物の人たちを楽しませてくれました。

終了後は、^{ししおり}鹿折小学校の子どもたちと狭山から参加した子どもたちが一緒にグループになってホテルに宿泊しました。



狭山のメンバーはチーム エクセレンテの一員として踊った

★8月11日 日曜日 狭山の手もみ茶体験と絆Tシャツづくり

茶業組合青年部と昨年の茶娘の指導による手もみ茶と、グループ毎に同じデザインで作った絆Tシャツは記念に持ち帰りました。絆Tシャツづくりには、文団連の青少年文化体験フェスタで使ったバケツが活躍しました。

ニュースで知っている津波で打ち上げられた漁船の近くにある^{ししおり}鹿折小学校の子どもたちと保護者のみなさんに出会えた事で支援の意味や重さをしっかりと受け止めることができました。



手もみ茶の体験



一緒に作ったTシャツ

PTA 会長丸山さんの「ありがとうございました」の言葉に復興への希望や着実な歩みを感じました。

これからは情報を知るたびに^{ししおり}鹿折のみなさんを思いだし一喜一憂することになるでしょう。

そして、継続して支援していきたいという思いを新たに作る旅でした。

被災者支援プロジェクト T・K

「気仙沼とともに歩む会 さやま」

狭山青年会議所の会員とOBに有志が加わった、気仙沼を支援する会。狭山青年会議所のメンバーが東日本大震災の支援を通して、^{ししおり}気仙沼市立鹿折小学校 PTA 副会長(当時)の千葉氏に出会ったことをきっかけに、鹿折小学校との絆を深めてきた。

編集後記

例年になく猛暑の中、体調管理も大切。そんな中、2月の芸術祭の企画も着々と進んでいます。今号から会報グループに岸野さんが加わりました。より読みやすい会報を目指して、チームワークで頑張りますので、よろしくお願いします。

(高沢正夫)